

高分子系からみた建築材料特集

高分子というもの……………井本 稔……1
 プラスチックと建築……………田中良太郎……9
 建築用合成高分子材料一覧表……………編集委員会……19
 現代建築とガラス……………大野 正巳……21
 「アンチサン」防熱ガラスに就て……………木村 喬夫……31
 夏季の戸外風速・風向について……………石原 正雄……34
 紫 煙 室…………………………36

この号の読者の皆様に編集者よりお願いのこと

「高分子系建築材料」という耳なれない名前が出たり私共に苦手の化学記号の出てくる本号は、おそらく読者の皆様をあまりよこばせないことになるだろうと思います。しかし皆様はすでにその高分子系建築材料を相当に使つておられる現状であります故、これを系統化しその持っている無限の発展性に展望を与えたいと私共は考えました。高分子化学については、特に建築家の為に斯界の権威大阪市大井本教授にお願いしてできるだけ程度を下げて解説していただきました故、何とかお口に合うことと信じます。何卒玩味して下さい。また建築家としての側から、同じく大阪市大の田中教授にこの新材料の解説をしていただきました。両先生の御労作を併せ読んで下さる読者は建築家としての大切な素養の一端を把握されるわけだと存じます。

7月6日より8日迄、私はグロピウス教授夫妻を倉敷に御案内しました。民家や工芸品を実に慎重な態度で観察されたグロピウス教授が才一に質問するのは「材料」の事でありました。正しく使用された材料とそれから生まれた感触や形に対しては深い鑑賞の目を向けておられました。「材料」を飛ばしていきなり形につくという態度は少しも見られませんが、現代建築家は少くとも鉄とコンクリートとガラスをマスターしなければなりません、果してガラス一つでもマスターできるものだろうか——日本板ガラスの大野研究課長より立派な労作をいただきました故、これによつて試みに自問自答してみして下さい。

最後に建材関係の皆様へ申し上げます。高分子系のごとき新材料は今迄私共の馴染んできた建材界を圧迫するか否かの問題であります。それについて私は昔ラジオが日本に出現した時ラジオはレコードを圧迫するという説があつたことを思い起します。事実は全くその逆でありました。煉瓦を克服して生れた管の現代建築によく煉瓦が使われているのを発見します。新しい建材と古くからある建材とはいつか統一ある調和をもつて共存できるのだと信じます。唯、加減な妥協ではなく真にその各々の特質を生かした姿によつてであります。

高分子系材料のような新しい登場者は謙虚な態度で古い演技者の経験を学ぶべきだと思います。新しい材料が一つの新建築様式の出発に当つての担い手であることは、今迄の建築史の教えるところではありますが「正しい使い方」がなかつたならば、たちまち消えてしまう映画スターの運命をも持つものである点を反省すべきだと思います。目新しいからという外観上の特徴からではなく、本質的な特質を探求されて新登場者を育て上げようという気風が本号の読者の皆様によつて少しでも生れてくるならば、私共編集者の労は酬いられたこととなります。(浦辺記)

表紙写真について

表紙カラー写真は、滝川セルロイド株式会社研究室試作による硬質ビニール板(商品名タキロン)を使用して作られたモデルハウスである。建築物の骨組となる柱に木の材料を組立てた以外は、全部硬質ビニール板を使用している。(但し窓枠の取付は蝶番金具)。

1. 屋根……硬質ビニール板波板(緑色) 2. 壁(内部外部共)間仕切……硬質ビニール板 3. 床……硬質ビニール板
 タイル(市松模様) 4. 窓枠及びドア……硬質ビニール(各種) 5. 腰張り(内面)……硬質ビニール板(ガラ
 物、大理石模様) 6. 窓ガラス……硬質ビニール板(透明) 7. 家具……硬質ビニール加工品(机及び椅子)